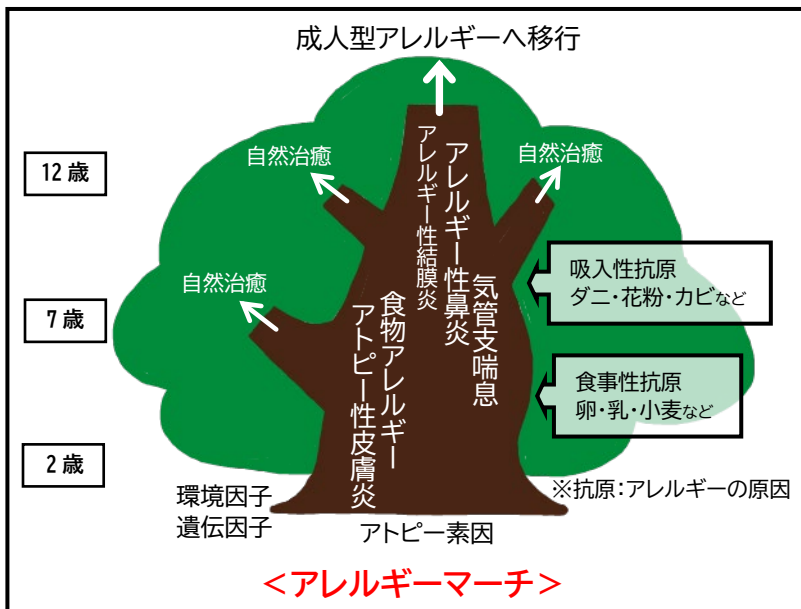


アレルギー疾患の多くはアレルギー素因（アトピー素因）という体質を背景に、環境要因が複雑にからみあい、発症していくものと考えられ、ご家族にアレルギー性疾患の方がいらっしゃるお子さんは、アトピー素因をもっているかもしれません。

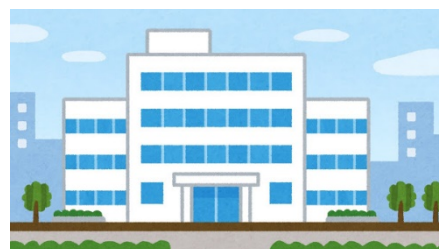
乳幼児期のアレルギーは、成長するにつれて、いろいろなアレルギー症状が出たり消えたりしていくことが大きな特徴です。これをマーチ（行進曲）にたとえて、「アレルギーマーチ」と読んでいます。

たとえば、赤ちゃんのときに食物アレルギーやアトピー性皮膚炎になると、数年後に気管支喘息になり、さらに少し大きくなってからアレルギー性鼻炎やアレルギー性結膜炎になるというケースが見られることがあります。



もちろん個人差はありますし、全員が同じルートをたどるわけではありません。発症要因の除去に予防的に取り組みながら、アレルギー疾患の発症に「できるだけ早く気づくこと」と「適切な治療と管理により症状をコントロールしていくこと」は非常に重要です。

当科では、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎などのアレルギー性疾患に対する治療を、地域の医療機関とも連携しながら行っています。入院での食物アレルギー負荷試験やアトピー性皮膚炎治療、外来では食物アレルギーの経口免疫療法や栄養指導、アトピー性皮膚炎や気管支喘息の長期管理、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法、栄養管理部と連携した食事指導などを行っています。アレルギー疾患の発症に「できるだけ早く気づくこと」と「適切な治療と管理により症状をコントロールしていくこと」を目指しています。



- アトピー性皮膚炎
- 食物アレルギー
- 気管支喘息
- アレルギー性鼻炎